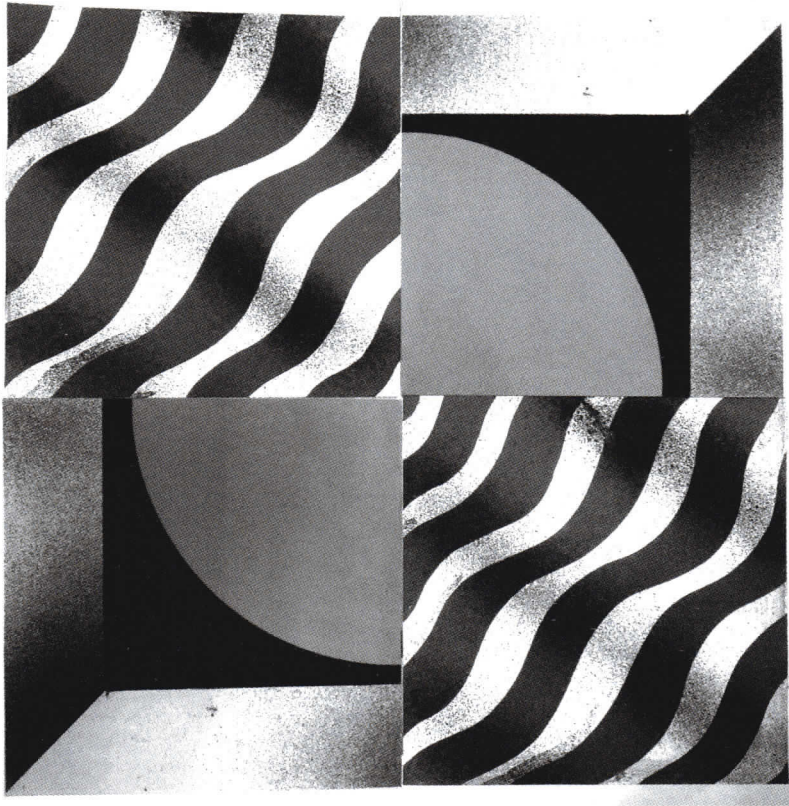


藝文京



京都市芸術文化情報誌

2012年(平成24年)7月1日・通巻122号

公益財団法人京都市芸術文化協会

2012 国際尺八フェスティバルin京都

倉 橋 容 堂

去る五月二十八日から六月四日までの八日間、世界中の尺八音楽愛好家が京都に集い、「2012国際尺八フェスティバルin京都」というイベントが開催されました。

わが国においては愛好者の減少により伝統継承の危機が云々される尺八音楽ですが、目を世界に転じると、まったく様相は異なります。いま世界の各地で、尺八というユニークな楽器を手にし、自らを表現する道具として真剣に取り組んでいる人たちが、ひじょうな勢いで増えているのです。

尺八音楽の国際化は三十年ほど前からアメリカとオーストラリアで始まり、「国際尺八フェスティバル」もアメリカで二回、オーストラリアで一回開催されました。しかし今回のフェスティバルでは、尺八音楽普及の「全世界化」とでも言うべき様相が顕著になりました。参加者の国籍を見ると、アメリカ、カナダ、ブラジル、イギリス、フラン

ス、スペイン、イタリア、オランダ、デンマーク、ドイツ、チェコ、ウクライナ、ロシア、中国、台湾、オーストラリアと、まさに全世界を網羅しています。とくにここ数年のヨーロッパ、南アメリカ、そして中国での普及ぶりには目を見張るものがあります。

六月一日と四日は、京都芸術センターにて、世界の尺八腕自慢たちによる「国際尺八コンサート」が開催されました。そこでの尺八は、日本の伝統楽器と言うよりも、演奏者それぞれの個性を表現するユニバーサルな楽器であるかのように見えました。ちょうど日本の風土にすっかり溶け込んだギターやピアノと同じような。

六月二日は、京都府立文化芸術会館において、「名流尺八コンサート」が開かれました。数百年にわたり尺八音楽の伝統を守り続けてきた「流派」というものを、とくに外国人尺八愛好家に「体感」していただく



出演者ミーティング風景

ために、主催者の強い意思により実現したコンサートです。しばしば否定的に語られる流派や家元制度はなぜ存在したのか、歴史的にどのような役割を果たしてきたのか、それらは議論するものではなく全身で感じるべきものだと思います、あえて流派色を最前面に出したプログラムを組みました。

幸い尺八界の主要な十一流派の協賛を得、総出演者二七〇名という大演奏会となりました。各流派の演奏家たちの鬼気迫るような熟演により、ユニバーサル化した尺八の「ルーツ」の偉大さを、外国人愛好家たちも理屈を超えて体感したものだと思います。

六月三日は、京都府立府民ホール・アルティで、現代尺八界トップスターたち三十四名による競演会「マスターズ尺八コンサート」が開かれました。国際フェスティバルの中でしか実現できない夢のような顔ぶれの最高レベルのコンサートでした。七時間という長丁

場にもかかわらず、舞台と客席は終始緊張した空気では結ばれ、終演時には会場は大きな興奮に包まれました。

このほかこのフェスティバルでは、浜松市楽器博物館に所蔵される貴重な「古管尺八」の展示会や、その展示物を一流演奏家が実際に演奏してみる「古管コンサート」、一流演奏家たちによるワークショップ、ライブハウスでの尺八ライブセッションなど、多彩な催しを実施され、のべ三千人を超える参加者は尺八を吹いていることの喜びをかみしめました。私たち日本人尺八愛好家には「尺八を吹いている人が、こんなにたくさんいるんだな」というのが、正直な実感だったようです。

最終日の夜、お別れ会では今後の国際尺八フェスティバルの予定が発表され、四年後の二〇一六年にチェコのプラハで、また六年後の二〇一八年には中国の蘇州で再会することを約束して、閉幕しました。



国際尺八コンサート(京都芸術センター 講堂)